

教科名〔 公民 〕

科目名	単位数	学年・組	担当者名
倫理	2単位	3年4.5組	*

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	生徒が自分の「生き方」・「在り方」について主体的に考えるための基礎的な知識と考え方を身につけさせる。 「現代社会における倫理」、「日常生活における倫理」など身近な問題について考える姿勢を育てる。 「人間とは何か」について考えるきっかけを与える。
使用教科書・副教材等	教育出版『新 倫理』 プリント教材

2 学習計画及び評価法等

学期	学習内容	月	学習のねらい	備考 1. 学習活動の特記事項 2. 副教材の使用など	調査範囲	評価の観点のポイント				
						態度 関心・ 意欲	思考・ 判断	技能・ 表現	知識・ 理解	
第1学期	・人間を見つめて(1)	4 ・ 5	・古代・中世の人間観の歴史を理解するために、古代ギリシアの思想、ユダヤ教とキリスト教の思想、イスラム教の思想について学ぶ。 ・東洋の人間観の歴史を理解するために、古代インドの思想と仏教の思想、儒教思想・老荘思想などの中国の古典思想、近代以前の日本の思想について学ぶ。	・生徒が積極的に授業に参加するように工夫する。 ・教科書に基づいて授業を行い、必要に応じて資料プリントなども用いる。	第1学期 中間 考査					
	・人間を見つめて(2)	5 ・ 6 ・ 7 ・ 8	・近代の人間観を理解するために、ルネサンス・宗教改革・経験論・合理論・啓蒙思想・功利主義などの西洋の近代思想、実存主義・社会主義・その他の現代の思想について学ぶ。 ・世界とつながる日本の思想を理解するために、西洋近代思想の受容・近代思想の展開・独自の思想などの近代の日本の思想について学ぶ。	・生徒が積極的に授業に参加するように工夫する。 ・教科書に基づいて授業を行い、必要に応じて資料プリントなども用いる。	第1学期 期末 考査					
第2学期	・自己への問い ・他者ととも生きる	9 ・ 10	・自分自身を見つめさせるために、子どもと大人、生と死、男と女、仕事と勉強の意味などについて学ぶ。 ・私たちを取りまくものについて考えさせるために、病気、老い、死などについて学ぶ。 ・人とのかかわりについて考えさせるために、現代の社会、家族、高齢化などについて学ぶ。 ・情報がつなぐものについて考えさせるために、情報化社会、情報倫理について学ぶ。	・生徒が積極的に授業に参加するように工夫する。 ・教科書に基づいて授業を行い、必要に応じて資料プリントなども用いる。	第2学期 中間 考査					

			<ul style="list-style-type: none"> ・社会とのかかわりのなかで生きる意味を考えさせるために、民主主義、正義、公共性などについて学ぶ。 						
	<ul style="list-style-type: none"> ・自然と人間 ・共存する社会 	10 ・ 11 ・ 12	<ul style="list-style-type: none"> ・命の意味について考えさせるために、生命工学と生命倫理、死生観などについて学ぶ。 ・環境について考えさせるために、自然観、科学技術と倫理、環境問題と環境倫理などについて学ぶ。 ・伝統の継承と発展について考えさせるために、伝統文化を受け継ぐ意味、日本の外来思想の受容などについて学ぶ。 ・地球社会の中の私たちについて考えさせるために、地球社会、国際化、異文化理解などについて学ぶ。 ・人類と福祉について考えさせるために、多文化共生、平和と人権などについて学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が積極的に授業に参加するように工夫する。 ・教科書に基づいて授業を行い、必要に応じて資料プリントなども用いる。 	第2学期	期末	考査		
第3学期	・人間にとって大切なもの	1 ・ 2 ・ 3	<ul style="list-style-type: none"> ・人間にとって大切なものについて考えさせるために、目に見えないものの大切さ、芸術とその見方、見えないものへの信頼などについて学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が積極的に授業に参加するように工夫する。 ・教科書に基づいて授業を行い、必要に応じて資料プリントなども用いる。 	学年	末	考査		
【1・2・3学期における課題・提出物等】 <ul style="list-style-type: none"> ・ノート ・提出プリント 									
【1・2・3学期における評価方法】 <ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・提出物 ・授業への参加態度 									